

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

目線の高さ

先月24日、今年のプロ野球ドラフト会議が行われました。毎年、将来を有望視された若者が満面の笑みで映し出されます。しかし、この中で引退まで第一線で活躍するのは一握りです。それだけ厳しいのがプロの世界だということでしょう。

さて、メジャーリーグの1シーズン最多安打記録262本は日本人選手によって樹立されています。この選手はドラフト4位で日本の某球団に入団し、2軍からスタートしています。また、往年の名選手もドラフト6位であったり、テスト生同然で入団したりし、頭角を現して、中心選手になった方もいます。現役メジャーリーガーでは日本の球団に育成選手としての入団がスタートの投手もいます。

おそらく、このような選手に共通するのは「プロ野球選手になること」がゴールという気持ちで入団されてはいなかったのかなと思います。プロ野球選手としてどのような選手になりたいのか、自分がチームの中で生かせる強みは何なのか、出場のチャンスを得るためにはどうしたらいいかななどを試行錯誤しながら練習をされたのではないかと思います。

成り行きに任せてばかりで成果や結果を望んでも思うに任せないと思います。自分の目線を高くして目標を見据えたいうえで、今自分に必要なことは何なのかを考えることはプロ野球に限らず必要だと感じています。



匠の話

こんな話があります。

Aさんが家を立てようと、大工さんの下を訪れました。家のことについて様々な話をする中で、2階に上る階段をどこに設置するかという話になりました。Aさんが希望した階段の場所には家を支える梁があり、大工さんは「そこに階段はつけられない」「耐久性に問題がありますよ」と説明しました。

しかし、Aさんは頑として譲らず、「自分の家を建ててるのだから、自分の好きにしていればいいじゃないか」「大工は依頼主の言う通りの家を建てればいいんだよ」と、自分の意見を通しました。大工さんは「わかりました。でも、説明はしましたよ」と、Aさんの希望の場所に階段を設置しました。やがて、Aさんの要望した通りの家が完成し、Aさんは大満足でした。

しばらくして、Aさんの住んでいる地域に台風が上陸しました。Aさんの家は台風にも耐えることができず、倒壊してしまいました。

世の中には様々な専門的な知識や技能をもった方がおられます。そのような方は専門的な見地から様々なアドバイスをくださることがあります。時には自分が思っていたことと真逆の指摘をいただくこともあり、「目から鱗」のこともしばしばです。迷ったり、悩んだりしたときは複数の専門家に助言をいただくように心がけています。